

平成27年10月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年3月13日
上場取引所 東

上場会社名 ベルグアース株式会社
 コード番号 1383 URL http://www.bergearth.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山口 一彦
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部長 (氏名) 越智 正勝 (TEL) 0895-20-8231
 四半期報告書提出予定日 平成27年2月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年10月期第1四半期の連結業績(平成26年11月1日～平成27年1月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年10月期第1四半期	422	—	△198	—	△198	—	△132	—
26年10月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 27年10月期第1四半期 △133百万円(—%) 26年10月期第1四半期 —百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年10月期第1四半期	△104.09	—
26年10月期第1四半期	—	—

(注) 1. 平成27年10月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成26年10月期第1四半期の数値及び対前年同四半期増減率は記載していません。
 2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年10月期第1四半期	2,826	1,059	37.2
26年10月期	—	—	—

(参考) 自己資本 27年10月期第1四半期 1,051百万円 26年10月期 —百万円

(注) 平成27年10月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成26年10月期の数値は記載していません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年10月期	—	0.00	—	10.00	10.00
27年10月期	—	—	—	—	—
27年10月期(予想)	—	0.00	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年10月期の連結業績予想(平成26年11月1日～平成27年10月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,360	—	88	—	94	—	61	—	48.04

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 平成27年10月期第1四半期より連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率は記載していません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 1社(社名) 青島芽福陽園芸有限公司、除外 1社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年10月期1Q	1,269,900株	26年10月期	1,269,900株
② 期末自己株式数	27年10月期1Q	64株	26年10月期	64株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年10月期1Q	1,269,835株	26年10月期1Q	1,269,859株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	10
(企業結合等関係)	10
(セグメント情報等)	11
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間から四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期連結累計期間及び前連結会計年度末との比較分析は行っていません。

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、円安・株高を背景に輸出型企業や大企業を中心に業績は回復してきたものの、消費税率引き上げの影響や円安による輸入原材料価格の上昇の影響等により、国内全体での景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当社の属する農業分野におきましては、6次産業化の推進、農産物の輸出拡大、大企業や異業種による農業生産法人設立や植物工場への参入等、農業への注目度は高まっているものの、農家の高齢化や後継者不足、国内市場の縮小、TPP交渉の影響等、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、引き続き野菜苗市場のシェア拡大を図るため、生産能力の拡大と生産性の向上に努めております。また、青島芽福陽園芸有限公司の子会社化により今後の市場規模拡大が見込まれる中国でのアグリビジネスをスタートしております。

上記の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は422,522千円、営業損失は198,596千円、経常損失は198,894千円、四半期純損失は132,175千円となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高が含まれております。

(野菜苗生産販売事業)

当第1四半期連結累計期間の売上高は346,710千円となりました。損益面につきましては、季節的な業績変動要因に加え、規模拡大及び研究技術開発等の先行投資を引き続き進めている結果、97,669千円のセグメント損失(営業損失)となりました。

なお、当事業部門の第1四半期(11月～1月)の売上高は、野菜苗の需要が全国的に減少するため、他の四半期と比較して少額となる傾向にあります。また、コスト面では、減価償却費や間接部門の人件費等が各四半期に概ね均等に発生することに加え、暖房用の燃料費が集中するなどの業績変動要因があります。

品目分類別の売上高は次のとおりであります。

品目分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
トマト苗	136,826	—
キュウリ苗	114,610	—
ナス苗	9,707	—
スイカ苗	6,486	—
メロン苗	59,866	—
ピーマン類苗 (注)	3,257	—
その他	15,955	—
合計	346,710	—

(注) ピーマン類として、ピーマン・パプリカ・シシトウ・トウガラシをまとめて表示しています。

規格分類別の売上高は次のとおりであります。

規格分類	売上高(千円)	前年同四半期比(%)
ポット苗(7.5cm~15cm)	157,858	—
当社オリジナル(アースストレート苗、ヌードメイク苗、e苗シリーズ等)	119,886	—
セル苗(288穴~72穴)	57,756	—
その他	11,209	—
合計	346,710	—

(注)ポット苗は、ポリエチレンのポット(ポリ鉢)で育苗した一般的な苗であり、ポットのサイズが大きくなると苗のサイズも大きくなります。セル苗は、小さな穴が連結した容器(セルトレー)で育苗した苗であり、穴数が増えると苗のサイズが小さくなります。

納品地域分類別の売上高は次のとおりであります。

納品地域分類	売上高(千円)	前年同四半期比(%)
北海道・東北	39,009	—
関東	230,508	—
中部・甲信越・北陸	34,892	—
近畿・中国	19,682	—
四国	12,346	—
九州・沖縄	10,272	—
合計	346,710	—

(流通事業)

資材部門におきましては、培養土等を主力商品として販売した結果、売上高は15,862千円となりました。農産物部門におきましては、愛媛県産の柑橘及び鹿児島県産のキャベツを主力商品として販売した結果、売上高は14,774千円となりました。コンビニ部門の売上高は44,982千円となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における流通事業全体の売上高は75,619千円、セグメント損失(営業損失)は5,936千円となりました。

(海外事業)

当事業部門におきましては、中国山東省にて野菜苗及び花苗の生産、鉢花(シクラメン)の生産、トマト及びアスパラガス等の青果物の生産を中心とした施設園芸を展開しております。

当第1四半期連結累計期間の売上高は1,380千円、セグメント損失(営業損失)は7,454千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は2,826,422千円、負債は1,767,357千円、純資産は1,059,064千円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年10月期の連結業績予想につきましては、当第1四半期連結累計期間において概ね計画通り推移していることから、平成26年12月12日に公表した業績予想に変更はありません

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第1四半期連結累計期間において、青島芽福陽園芸有限公司を子会社化したことに伴い、連結の範囲に含めております。また、平成26年3月に設立したベルグ福島株式会社につきましても、特定子会社の異動には該当しておりませんが、当第1四半期連結累計期間より連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

当社は当第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な項目は以下のとおりです。

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社

連結子会社の数	2社
連結子会社の名称	青島芽福陽園芸有限公司、ベルグ福島株式会社

(2) 非連結子会社

非連結子会社の数	1社
非連結子会社の名称	ファンガーデン株式会社

(連結の範囲から除いた理由)

同社の財務又は営業又は事業の方針を決定する機関に対する支配が一時的であるため、連結から除いております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した非連結子会社

持分法を適用した非連結子会社の数	1社
持分法を適用した非連結子会社の名称	ファンガーデン株式会社

(2) 持分法を適用しない関連会社

持分法を適用しない関連会社の数	1社
持分法を適用しない関連会社の名称	株式会社九重おひさまファーム

(持分法を適用しない理由)

四半期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金等(持分に見合う額)に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性が乏しいため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の決算日に関する事項

連結子会社のうち、青島芽福陽園芸有限公司の決算日は12月31日であります。

四半期連結財務諸表の作成にあたっては、同社の第4四半期会計期間(自平成26年10月1日至平成26年12月31日)の四半期財務諸表を使用し、四半期連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

① 子会社及び関連会社株式

移動平均法による原価法

② その他有価証券

(a) 時価のあるもの

四半期決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

(b) 時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

① 商品

主に売価還元法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法）

② 製品・仕掛品・原材料・貯蔵品

総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法）

(3) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

定率法によっております。ただし、建物（建物附属設備は除く）については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 10～38年

構築物 10～40年

機械及び装置 7～17年

② 無形固定資産

定額法によっております。ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

(4) 引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当四半期連結累計期間に負担すべき支給見込額を計上しております。

(5) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、四半期連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産、負債、収益及び費用は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

5年間の定額法により償却しております。

(7) その他四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第1四半期連結会計期間
(平成27年1月31日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	360,109
受取手形及び売掛金	413,839
商品及び製品	10,744
仕掛品	96,750
原材料及び貯蔵品	149,543
その他	118,008
貸倒引当金	△543
流動資産合計	1,148,451
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物（純額）	913,988
機械及び装置（純額）	100,204
土地	477,187
その他（純額）	14,346
有形固定資産合計	1,505,726
無形固定資産	
のれん	11,310
その他	37,528
無形固定資産合計	48,839
投資その他の資産	123,404
固定資産合計	1,677,970
資産合計	2,826,422

(単位:千円)

当第1四半期連結会計期間
(平成27年1月31日)

負債の部	
流動負債	
支払手形及び買掛金	301,502
短期借入金	200,000
1年内返済予定の長期借入金	201,417
未払金	205,327
未払法人税等	1,954
賞与引当金	23,499
その他	58,003
流動負債合計	991,705
固定負債	
長期借入金	726,939
資産除去債務	26,473
その他	22,239
固定負債合計	775,652
負債合計	1,767,357
純資産の部	
株主資本	
資本金	331,494
資本剰余金	241,494
利益剰余金	473,488
自己株式	△100
株主資本合計	1,046,376
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	4,833
為替換算調整勘定	426
その他の包括利益累計額合計	5,260
少数株主持分	7,427
純資産合計	1,059,064
負債純資産合計	2,826,422

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位:千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年11月1日 至平成27年1月31日)
売上高	422,522
売上原価	412,015
売上総利益	10,507
販売費及び一般管理費	209,104
営業損失(△)	△198,596
営業外収益	
受取利息	86
受取配当金	50
受取手数料	1,631
貸倒引当金戻入額	584
その他	1,697
営業外収益合計	4,050
営業外費用	
支払利息	1,361
持分法による投資損失	2,665
その他	321
営業外費用合計	4,348
経常損失(△)	△198,894
税金等調整前四半期純損失(△)	△198,894
法人税、住民税及び事業税	475
法人税等調整額	△64,296
法人税等合計	△63,820
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△135,074
少数株主損失(△)	△2,898
四半期純損失(△)	△132,175

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位:千円)

当第1四半期連結累計期間 (自平成26年11月1日 至平成27年1月31日)	
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△135,074
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	1,247
為替換算調整勘定	683
その他の包括利益合計	1,930
四半期包括利益	△133,143
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△130,501
少数株主に係る四半期包括利益	△2,642

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更）

（1）連結の範囲の重要な変更

当第1四半期連結会計期間より、出資持分を取得した青島芽福陽園芸有限公司を連結の範囲に含めております。また、ベルグ福島株式会社については、今後重要性が増すと考えられるため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

（2）持分法適用の範囲の重要な変更

当第1四半期連結会計期間より、ファンガーデン株式会社については、四半期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)に重要な影響を及ぼすため、持分法適用の範囲に含めております。

（企業結合等関係）

取得による企業結合

（1）企業結合の概要

① 被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称	青島芽福陽園芸有限公司
事業の内容	野菜苗・花苗・鉢花(シクラメン)・青果物(トマト等)の生産

② 企業結合を行った主な理由

中国でのアグリビジネスを展開並びに研究開発拠点とするためであります。

③ 企業結合日

平成26年11月4日

④ 企業結合の法的形式

第三者割当増資引受

⑤ 結合後企業の名称

変更はありません。

⑥ 取得した議決権比率

62.5%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が青島芽福陽園芸有限公司の第三者割当増資を引き受けたためであります。

（2）四半期累計期間に係る四半期損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

平成26年10月1日から平成26年12月31日まで

（3）被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価	現金	28,690千円
取得原価		28,690千円

（セグメント情報等）

当第1四半期連結累計期間（自平成26年11月1日 至平成27年1月31日）

報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	野菜苗生産 販売事業	流通事業	海外事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	345,523	75,619	1,380	422,522	—	422,522
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,187	—	—	1,187	△1,187	—
計	346,710	75,619	1,380	423,710	△1,187	422,522
セグメント損失(△)	△97,669	△5,936	△7,454	△111,059	△87,537	△198,596

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額△87,537千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

（重要な後発事象）

連結子会社の増資

当社の連結子会社であるベルグ福島株式会社は、平成27年2月13日開催の臨時株主総会の決議に基づき、以下のとおり第三者割当増資を実施いたしました。

- | | |
|----------------------|------------|
| (1) 株式の種類 | 普通株式 |
| (2) 発行株式数 | 2,480株 |
| (3) 1株の発行価額 | 50,000円 |
| (4) 発行価額の総額 | 124,000千円 |
| (5) 払込期日 | 平成27年3月10日 |
| (6) 割当先及び割当株式数 | |
| ① ベルグアース株式会社 | 1,980株 |
| ② 全国農業協同組合連合会 | 500株 |
| (7) 増加した資本金及び資本準備金の額 | |
| ① 増加する資本金 | 62,000千円 |
| ② 増加する資本準備金 | 62,000千円 |
| (8) 資金の使途 | 設備資金 |
| (9) 当社の持株比率 | |
| ① 増資前 | 100% |
| ② 増資後 | 80% |